



03

奉仕

BASE Is Biblical And Solid Essentials

MINISTRY

*Introduction*

# 序論

“

**神の子は、  
神の使命を成就するために  
神のしもべとなられた。**

**-John Oswald Sanders**

神のご目的を  
成し遂げる  
奉仕者とされたい

01	奉仕の意義
02	奉仕の前に
03	奉仕の構造
04	奉仕者の資質
05	奉仕の報い

## Chapter 1

# 奉仕の意義

*Section 1-1*

# 神のご計画の中の 奉仕

私は  
神のご計画のすべてを、  
余すところなく  
あなたがたに知らせたからです。

使徒 20:27



御国を宣べ伝えて  
あなたがたの間を  
巡回した私

使徒 20:25

また私は、  
新しい天と新しい地を見た。  
以前の天と以前の地は過ぎ去り、  
もはや海もない。  
私はまた、聖なる都、  
新しいエルサレムが、  
夫のために飾られた  
花嫁のように整えられて、  
神のみもとから、  
天から降って来るのを見た。

私はまた、  
大きな声が御座から出て、  
こう言うのを聞いた。  
「見よ、  
神の幕屋が人々とともにある。  
神は人々とともに  
住み、人々は神の民となる。  
神ご自身が彼らの神として、  
ともにおられる。」

神のご計画

御国の実現

# ソロモン三部作

箴言

伝道者の書

雅歌

神の知恵に  
信頼する

神の知恵に  
信頼する

or

自分の知恵で  
判断する

今、知恵と知識を  
私に授けてください。

Ⅱ歴代誌 1:10



# 箴言

神の知恵によって  
どのように生きるか

# 伝道者の書

神の知恵によって  
生きるしかない

# 雅歌

神の知恵と  
一つになる望み

神の知恵に  
信頼する

神のご計画

御国の実現

*timeline*

歴史のゴール

御国の実現

新天新地

大いなる白い御座のさばき

千年王国

患難時代

携挙

教会の完成

兄弟姉妹の成長

*Section 1-2*

# 第1章のまとめ



あらゆる奉仕は  
世界の完成に  
つながっている

## Chapter 2

# 奉仕者の前に

*Section 2-1*

# 民数記から見る 奉仕者の姿

創世記

失敗した人

出エジプト記

回復された人

レビ記

礼拝する人

民数記

奉仕する人

*Section 2-2*

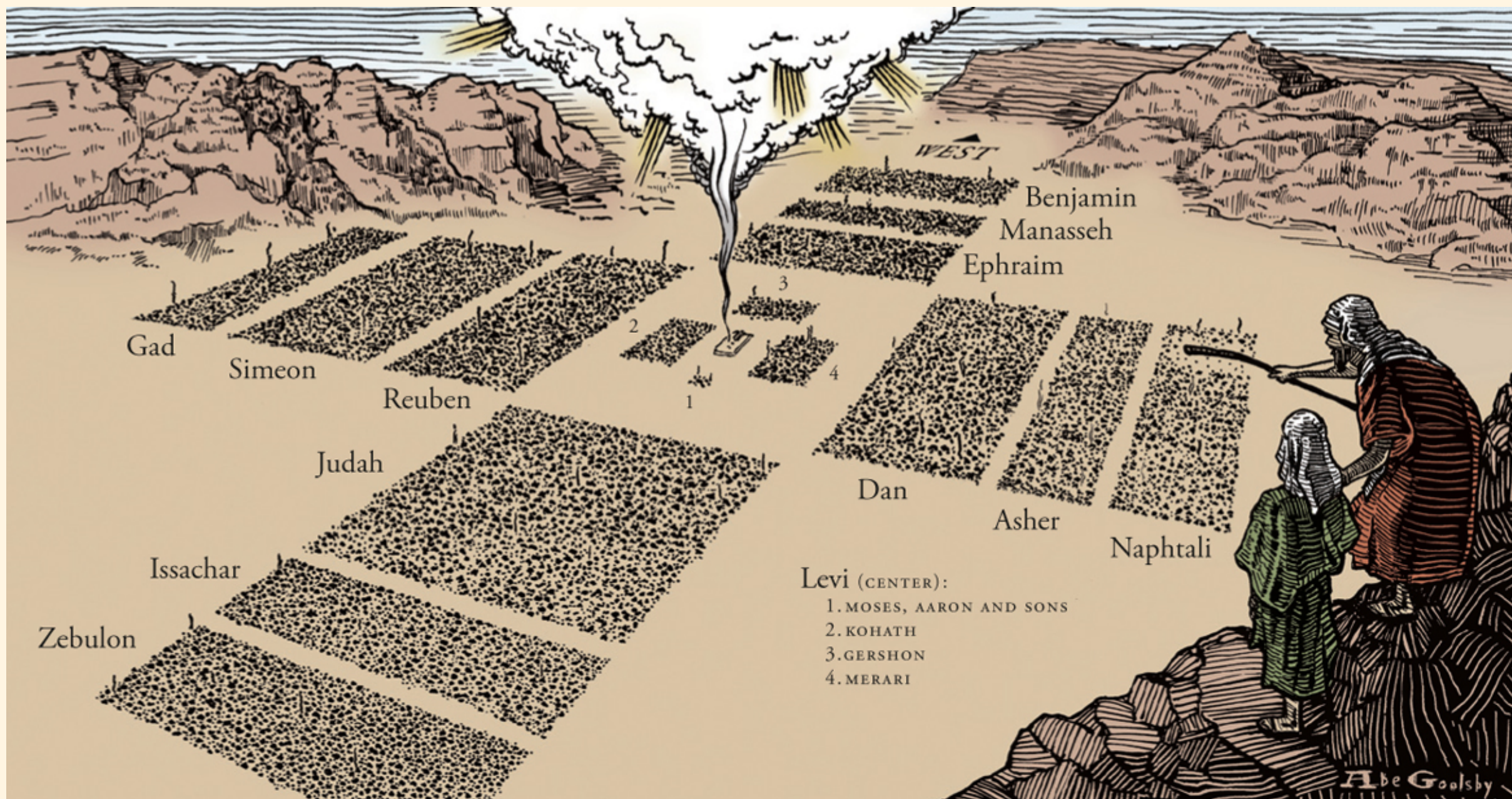
# 奉仕の本質

# 人口調査

1 兵士の人数調査

2 レビ人の人数調査





戦う力の中心は  
主への礼拝





“

自分の品性を通して、  
キリストを存分に現し、  
キリストの御名のために  
全世界に強烈な影響を  
与えた人は、  
その人の生涯は  
それ以外なかった  
と言えるほど、  
非常に多くの時間を  
神と過ごした人である。  
神と過ごす時間が  
わずかな人は、  
神のためになすことも  
わずかである。

-Edward McKendree Bounds

*Section 2-3*

# 奉仕に進むために

## 民数記 5 章

1 汚れた人の隔離

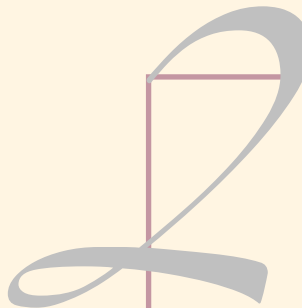
2 罪過のための賠償

3 妻の潔白の証明




**汚れた人の隔離**

**神との関係の健全化**



# 罪過のための賠償

## 同胞との関係の健全化



**妻の潔白の証明**

**家族との関係の健全化**

*Section 2-5*

# 第2章のまとめ

奉仕する力の  
中心は  
主への喜び



**奉仕のためには  
関係の健全化が必要**

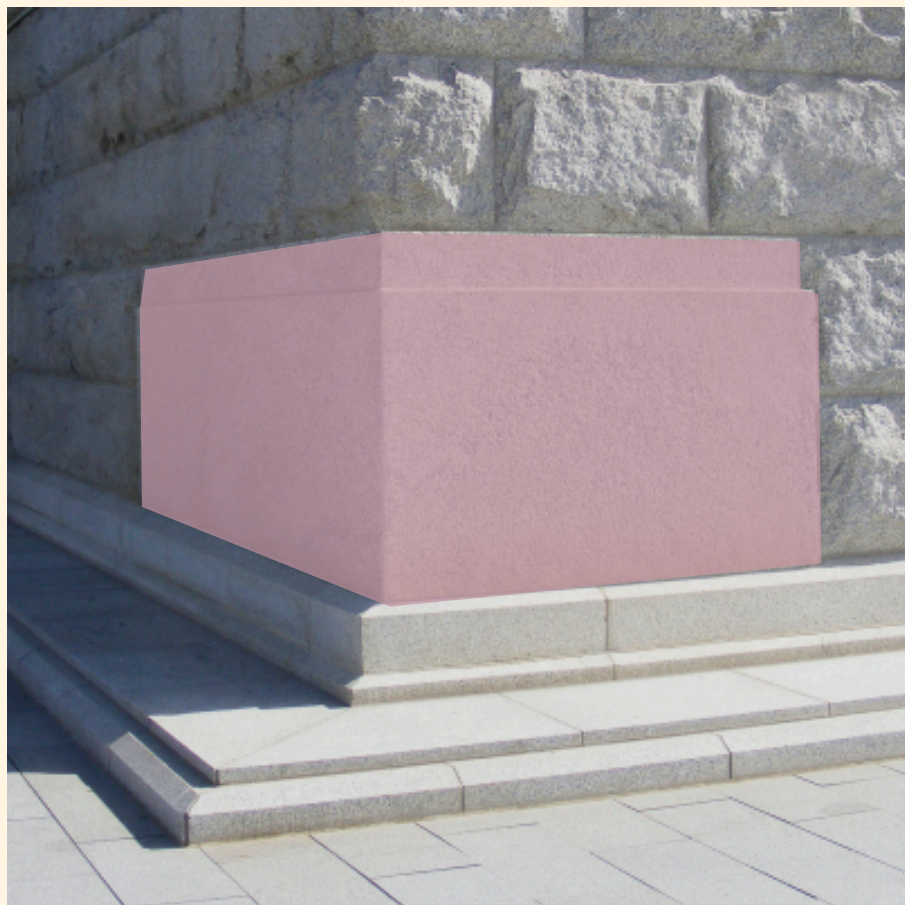
## Chapter 3

# 奉仕の構造

*Section 3-1*

# 集会成長の要

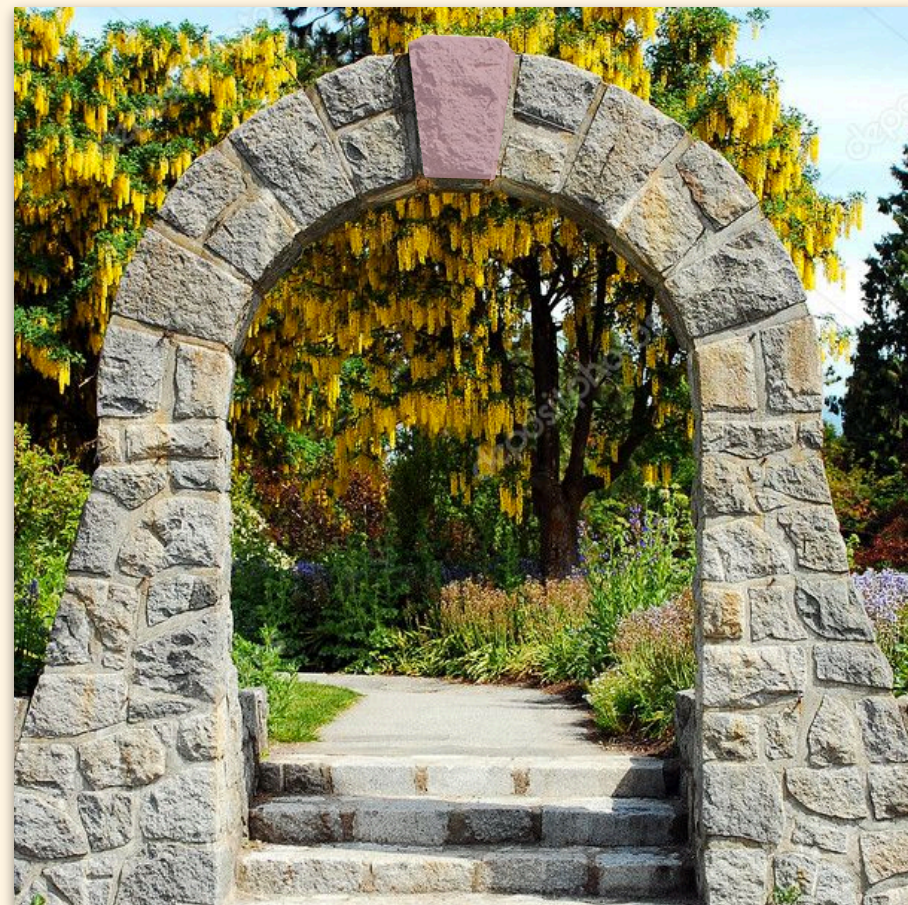
使徒たちや預言者たちという  
土台の上に建てられていて、  
キリスト・イエスご自身が  
その要の石です。  
このキリストにあって、  
建物の全体が組み合わされて成長し、  
主にある聖なる宮となります。  
あなたがたも、  
このキリストにあって、  
ともに築き上げられ、  
御霊によって神の御住まいと  
なるのです。



---

隅の石

---



---

かしら石

---

私たちはみな、  
神の御子に対する  
信仰と知識において  
一つとなり、  
一人の成熟した大人となって、  
キリストの満ち満ちた  
身丈にまで達するのです。

エペソ 4:13

集会成長の要は  
主にあって  
行動する意識

*Section 3-2*

# 集会成長の土台



使徒たちや預言者たちという  
土台の上に建てられていて、

エペソ 2:20

集会成長の土台は  
みことば

*Section 3-3*

# 集会成長のための 役割

こうして、  
キリストご自身が、  
ある人たちを使徒、  
ある人たちを預言者、  
ある人たちを伝道者、  
ある人たちを牧師、  
また教師として  
お立てになりました。  
それは、聖徒たちを整えて  
奉仕の働きをさせ、  
キリストのからだを  
建て上げるためです。

エペソ 4:11-12

ある人たちを使徒、  
ある人たちを預言者、  
ある人たちを伝道者、  
ある人たちを牧師、  
また教師として  
お立てになりました。

エペソ 4:11

私（パウロ）が植えて、  
アポロが水を注ぎました。  
しかし、成長させたのは神です。

1コリント 3:6

*Section 3-4*

奉仕は「皆の益」  
を考えて

さて、賜物はいろいろありますが、  
与える方は同じ御霊です。  
奉仕はいろいろありますが、  
仕える相手は同じ主です。  
働きはいろいろありますが、  
同じ神がすべての人の中で、  
すべての働きをなさいます。  
皆の益となるために、  
一人ひとりに御霊の現れが  
与えられているのです。



たとえ私が人の異言や  
御使いの異言で話しても、  
愛がなければ、  
騒がしいどらや、  
うるさいシンバルと同じです。  
たとえ私が  
預言の賜物を持ち、  
あらゆる奥義とあらゆる知識に  
通じていても、  
たとえ山を動かすほどの  
完全な信仰を持っていたても、  
愛がないなら、  
私は無に等しいのです。

1コリント 13:1-3

たとえ私が持っている物の  
すべてを分け与えても、  
たとえ私のからだを  
引き渡して誇ることも、  
愛がなければ、  
何の役にも立ちません。

愛は人を育てます。

1コリント 8:1

ただ、  
すべてのことを適切に、  
秩序正しく行いなさい。

1コリント 14:40

愛の指摘で  
あっても適切に  
秩序正しく

*Section 3-5*

# 奉仕とは

主にあって

みことばに  
基づき



2つの分野の  
表れを求めて

皆の益と  
なるために

*Section 3-6*

# 第3章のまとめ

奉仕者は  
主に結びつく  
必要がある

奉仕者は  
みことばの土台を  
築く必要がある

植える働きと  
水を注ぐ働きの  
連携が  
集会成長に必要

集会全体の  
益となる視点の  
奉仕が  
集会成長に必要

## Chapter 4

# 奉仕者の資質




*Section 4-1*


# 献身者の心

「イスラエルの子らに告げよ。  
男または女が、  
主のものとして身を聖別するため  
特別な誓いをして、  
ナジル人の誓願を立てる場合、

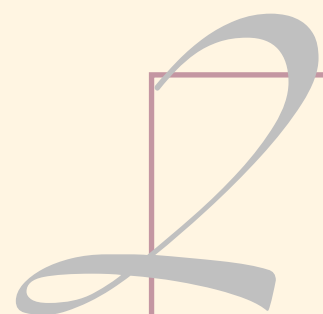
民数記 6:2



ぶどうを絶つ



その人は、  
ぶどう酒や強い酒を断たなければならない。  
ぶどう酒の酢や強い酒の酢を  
飲んでではない。  
また、ぶどう汁をいっさい飲んでではない。  
ぶどうの実の生のものも、  
干したものも食べてはならない。  
ナジル人としての聖別の全期間、  
彼はぶどうの木から生じるものは  
すべて、種も皮も食べてはならない。




髪の毛を切らない

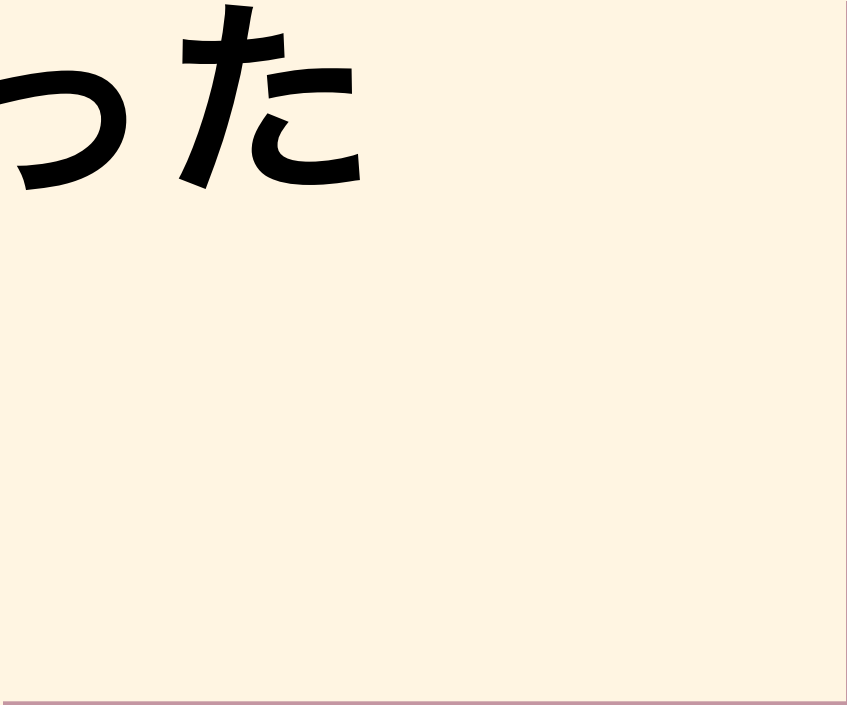
彼がナジル人としての聖別の誓願を  
立てている間は、  
頭にかみそりを当ててはならない。  
主のものとして  
身を聖別している期間が満ちるまで、  
彼は聖なるものであり、  
頭の髪の毛を  
伸ばしておかなければならない。

彼の頭には  
神への聖別のしるしが  
あるからである。

民数記 6:7



死体から  
遠ざかった





主のものとして身を聖別している間は、  
死人のところに入って行ってはならない。  
父、母、兄弟、姉妹が死んだ場合でも、  
彼らとの関わりで  
身を汚してはならない。

主のものとして  
身を聖別している間は、  
死人のところに  
入って行ってはならない。

民数記 6:6

*Section 4-2*

# 第4章のまとめ

献身への  
自発的な意志が  
奉仕には必要

奉仕者は  
祝福よりも  
与え主を喜ぶ

奉仕者は  
神との交わりを  
喜ぶ

奉仕者は  
神との親しさを  
喜ぶ

## Chapter 5

# 奉仕の報い



*Section 5-1*

# 奉仕の決算

私たちはみな、  
善であれ悪であれ、  
それぞれ肉体においてした  
行いに応じて  
報いを受けるために、  
キリストのさばきの座の前に  
現れなければならないのです。

# キリストの さばきの座

*Section 5-2*

# 奉仕の評価基準

天の御国は、  
旅に出るにあたり、  
自分のしもべたちを呼んで  
財産を預ける人のようです。  
彼はそれぞれその能力に応じて、  
一人には五タラント、  
一人には二タラント、  
もう一人には一タラントを渡して  
旅に出かけた。

するとすぐに、  
五タラント預かった者は出て行って、  
それで商売をし、  
ほかに五タラントをもうけた。  
同じように、  
二タラント預かった者も  
ほかに二タラントをもうけた。  
一方、一タラント預かった者は  
出て行って地面に穴を掘り、  
主人の金を隠した。

さて、かなり時がたってから、  
しもべたちの主人が帰ってきて  
彼らと清算をした。

マタイ 25:14-19

任された責任は  
人それぞれ



すると、  
五タラント預かった者が進み出て、  
もう五タラントを差し出して言った。

(中略)

主人は彼に言った。

『よくやった。

良い忠実なしもべだ。

おまえはわずかな物に

忠実だったから、

多くの物を任せよう。

主人の喜びを

ともに喜んでくれ。』

ニタラントの者も進み出て言った。

(中略)

主人は彼に言った。

『よくやった。

良い忠実なしもべだ。

おまえはわずかな物に

忠実だったから、

多くの物を任せよう。

主人の喜びを

ともに喜んでくれ。』

忠実

一タラント預かった者も  
進み出て言った。

『ご主人様。

あなた様は蒔かなかった  
ところからかき集める、  
厳しい方だと分かっていました。

主との関係が  
忠実さに  
影響する

*Section 5-3*

報いは永遠の姿に  
影響する

輝くきよい亜麻布

花嫁は、  
輝くきよい亜麻布を  
まとうことが許された。  
その亜麻布とは、  
聖徒たちの正しい行いである。





“

私たちは日を追うごとに、  
永遠のホームで  
やがて受ける報いと、  
喜び楽しむ度合いを  
自ら決定しつつあるのです。  
その決定の要因には、  
聖書をどれだけ知っているか、  
また、それに従順であるか、  
祈りの生活はどうか、  
神の民との交わりはどうか、  
主への奉仕はどうか、



“

神がゆだねてくださった  
すべてのものを忠実に  
管理しているか、  
ということが  
含まれることでしょう。

—William Macdonald

*Section 5-4*

# 奉仕者の特権

これはナジル人についてのおしえである。  
ナジル人としての  
聖別の期間が満ちたときは、  
彼を会見の天幕の入り口に連れて行く。  
彼は次のささげ物を主に献げる。  
すなわち、全焼のささげ物  
（中略）  
罪のきよめのささげ物  
（中略）  
交わりのいけにえ  
（中略）  
さらに穀物のささげ物

主こそ  
奉仕の  
最大の報い

*Section 5-5*

# 第5章のまとめ

奉仕が  
評価される時が  
来る

奉仕の  
評価基準は  
主の価値観



**奉仕には  
報いがある**

奉仕すること  
で  
学ぶ主がある

*Whole Summary*

# 全体まとめ

*Summary Of Introduction*

# 序論のまとめ

神のご目的に  
沿った  
奉仕者でありたい

*Chapter 1 Summary*

# 第1章 奉仕の意義 のまとめ

奉仕には  
壮大な意義がある

*Chapter 2 Summary*

# 第2章 奉仕の前に のまとめ



奉仕する前に  
整えることがある

*Chapter 3 Summary*

# 第3章 奉仕の構造 のまとめ

集会成長に  
つながる奉仕かを  
吟味する  
必要がある

*Chapter 4 Summary*

# 第4章 奉仕者の資質 のまとめ

奉仕者の資質は  
主を喜ぶ  
人であること

*Chapter 5 Summary*

# 第5章 奉仕の報い のまとめ

奉仕は  
永遠の姿に  
影響する

**EOF**



• 参考資料

ルイス・スペリー・シェイファー『聖書の主要教理』聖書図書刊行会、1985年  
高木慶太・芦田拓也『これからの世界情勢と聖書の預言』いのちのことば社、2002年  
R・A・ファーレル『集会の真理と行動』伝道出版社、1975年  
ウィリアム・マクドナルド『この日を主とともに』ゴスペルフォリオプレスジャパン、2014年  
ウィリアム・マクドナルド『新約聖書注解2』伝道出版社、2006年  
ヘンリー・W・ソルトー『幕屋～祭司と捧げ物～』牧草社、2004年

• 改版履歴

---

2015年4月	初版
2016年3月	改版
2016年8月	改版
2018年5月	改版
2019年9月	改版
2019年11月	改版
2019年12月	改版
2020年1月	改版
2020年2月	改版
2020年3月	改版
2020年4月	改版
2020年9月	改版
2020年10月	改版
2020年11月	改版

---